

教育目標			教育方針			
1 予測困難な時代に向き合う生きる力(「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」)を育成する。 2 多様な価値観を認め合い自分らしく自身の在りたい未来を探究し、自立して生きていく力を育成する。			1 地域ボランティアをはじめ災害ボランティア等の多様な活動をとおり、ふるさと意識の醸成と協働的な学びの実現により生徒に自己肯定感や自己有用感を持たせ、複雑化・多様化した社会変化に触れることで人間関係スキルのさらなる向上をはかる。 2 基礎学力の定着と多様な教育ニーズに対応するためICTを最大限に活用し、きめ細やかな指導体制により、個別最適な学びを実現する。			
自己評価について 達成度 80%以上 A 65%以上 B 45%以上 C 30%以上 D 30%未満 E						
番号	分掌	重点目標(評価項目)	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
1		柔軟で効率のよい校務の運営	① TeamsなどICTの活用を進め、職員の情報共有や情報交換をよりスムーズにする。 ② 1～3部のすべての生徒、全職員の意思疎通を図り、形式にとらわれない学校行事のあり方を検討する。 ③ ICT機器を活用し、集会や行事等のわかりやすさと効率化を促進する。	A	①達成 毎日の職員打ち合わせや連絡、各種アンケートなど効率的に使用できた。今後も連絡やチャット機能など活用の幅を広げていきたい。 ②概ね達成 今年度から職員会議には全職員が出席できる体制を整えた。学校行事の実施形態は内容に応じ、1～3部全員参加のもの、1・2部と3部分けて行うものについて、実施形態や実施時間帯の検討を継続していく。1・2部と3部職員は勤務時間が異なるが、より効果的な連携の方法を模索していきたい。 ③達成 サテライト集会は少しずつ実施方法に変化を加え、より効果的に行えるようになってきた。今後は全職員が機材を扱えるようにすることが課題である。	・西脇市のイベントや地域の祭りについていつも姿があり、楽しそうに参加されている印象がよかった。 ・先生間の情報共有は良好とのこと、全ての先生方が機材を使いこなせるように期待します。 ・1・2部3部の共同イベントにも苦勞されているようですが、生徒が受けている先生です。勤務時間が気になります。頑張ってください。 ・オープン・ハイスクールやホームページの作成など、広く広報活動が来ていると思う。
2	総務部	広報活動の推進	① オープン・ハイスクールや学校説明会を通じ、本校の教育の特色や校内外での生徒の活動内容を説明する。 ② ホームページを適宜更新し、本校生の活動の様子を広報する。 ③ 学校紹介ポスターや西北NEWSを通して本校の生徒の姿を近隣中学校に紹介する。	A	①達成 オープン・ハイスクールは年々参加者が増加し、直接説明をしたり、現状を見てもらうことで本校の様子を理解してもらえた。学校紹介ビデオのショートバージョンは内容が古く、編集し直す必要がある。 ②やや課題あり ホームページでの情報発信が遅れたり、紹介できなかったりするケースが今年も見られた。職員全員が更新できるようにしていきたい。 ③達成 毎月の発行に加え、体育祭や文化祭の号外も作成できた。また、オープン・ハイスクールなどではまとめ冊子を作成し紹介した。	
3		育友会や地域・行政等との連携	① 育友会や地域の方々と積極的な交流と連携を図り、文化祭、体育祭、オープンスクール等の諸行事を実施する。 ② 西脇市や自治協議会、商工会などの協力を得て、地域交流や地域貢献に努める。 ③ 本校の活動状況に対する地域や同窓生からの意見を広く受け入れられる体制を整える。	A	①概ね達成 今年も文化祭や体育祭に多くの保護者の方に来ていただいた。今後さらに校内外での生徒の活動に参加いただける環境を整えていきたい。 ②やや課題あり 1・2部のクリーンキャンペーンは雨天のために中止となった。来年度はボランティア・防災部と連携して、実施内容に工夫を加えて地域貢献を図ってきたい。 ③やや課題あり 学校の様子をこまめに案内できるように全職員がホームページを更新し、生徒の活動を同窓生や地域の方々に伝えられるようにしていきたい。	
4		多部制・単位制の利点を生かした教育課程の編成と運用	① 所属する部以外の授業の受講や、多様な単位修得方法(高等学校卒業程度認定試験・技能審査による単位認定、定通連携併修)を展開する。 ② 生徒の多様性に対応した特色ある学校設定科目の設定と運用を行う。	A	①達成 次年度も継続する。 ②達成 3卒希望者のニーズに応えるために自由選択科目を複数開設している。また必修科目の要件を複数のパターンでカバーすることができる。4卒の生徒も興味関心や希望進路に応じて選択可能。	・北高検定の事前学習や自主学習に取り組む生徒が少ない気がするが、興味ある分野を伸ばすために、広い分野を勉強するということを知ってほしい。 ・生徒たちが学校に合った多様性を学べるようにチャレンジしてほしい。シラバスが生徒たちが学びの糧となるように作成を継続してほしい。 ・多部制・単位制の取組は他の学校と差別化が図られ、入学してくる生徒たちにとっても自分のリズムで学習できるので、そのメリットを生かしてほしい。
5	教務部	質の良い授業の実施	① シラバスの作成と一般公開(ホームページに掲載) ② ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を展開する。 ③ オープンスクール(授業公開)を活用して教員の授業力向上を図る。教科の枠を超えて、多様な指導方法を取り入れる機会を作る。	A	①達成 次年度も継続する。 ②概ね達成 多様な生徒に対応するために、学校全体で授業のユニバーサルデザイン化に取り組んだ。 ③概ね達成 「ICTの効果的な活用」と「ユニバーサルデザインを意識した授業づくり」をテーマに公開授業週間を設定した。自教科だけでなく他教科の授業も見学に行く形態をとり、教員同士で意見交換を行うことで授業力の向上に取り組んでいる。	
6		学習指導の効果を高める取組	① 習熟度別クラス(国・数・英)、少人数クラス、複数教員による指導(チーム・ティーチング)等を効果的に活用する。 ② 学校設定教科「コーピング」で習得した学習スキルを活用する生徒の割合を40%とする。 ③ 独自検定「北高検定」で50点以上の成績を修めた生徒の割合を50%以上とする。 ④ 独自検定「北高検定」にむけた自主学習に取り組む生徒の割合を35%とする。	A	①達成 次年度も継続する。 ②概ね達成 チェックペンを使った記憶法、瞬発的に答える勉強法、声に出す暗記法などさまざまな学習スキルを学んだ。また、タブレット端末の活用方法を学び、さまざまなアプリを使用し学習を進めた。 ③概ね達成 第1回、第2回ともに特定の教科では「50点以上の成績を収めた生徒の割合が50%以上」となったが、別の科目ではほぼすべての年次で50%を超えない結果となった。引き続き生徒の基礎学力向上に向けての取組を続けていきたい。 ④達成 生徒アンケートで「事前学習の授業以外に自分で勉強したかどうか、一番適切なものを1～4から選んでください」という質問で、上位二つの選択肢を選んだ生徒の割合は46.9%であった。(昨年度41.0%)来年度も早目に検定範囲を公表するなどして生徒が自学出来るような環境の整備を進めたい。	
7	生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と校則を遵守する態度の育成	① 授業態度やマナーを改善させるルール作りと指導の徹底。 ② 時間の厳守、あいさつの励行を推進するため、あいさつ運動を年2回実施する。 ③ 生徒のスマートフォン使用時間帯を把握し、生活習慣を自ら見直す姿勢を確立させる。	B	①やや課題あり 授業開始の起立と礼の指導を行い、ONとOFFの切り替えを徹底した。また、授業中に帽子や防寒具を着用している生徒へのマナー指導を行い授業態度やマナーの改善を図った。授業態度の改善のため、授業態度の悪い生徒に対して「支援要請カード」を導入し、きめ細かな指導ができるようになった。 ②概ね達成 挨拶運動は予定通り実施。(4月・11月)遅刻の多い生徒に対しては、教職員の声掛けや面談等により、生徒の生活習慣を見直す取組を実施していく必要があると考えられる。 ③概ね達成 スマートフォンの長時間使用を改善するため、情報モラル講演会を実施するとともに、長時間利用の弊害について、定期的に注意喚起していく。	・学習態度については小中学校でも同様の課題を抱えている。学習指導を我々強く継続し、小さな自己達成感を積み重ねてほしい。 ・体育祭は生徒が楽しそうに参加していて気持ちよかった。吹奏楽部の演奏もよかった。 ・人や地域社会と関わる体験活動で主体的に取り組む実践力が充実しており、他人を思いやる心はもっと高評価でもよいと思う。 ・いじめについては認知件数が多いほど重大事案の発生率は低く、よく実践されていると感じる。生徒の内面や生活環境を理解し、さらに踏み込んだ人間関係を構築してほしい。 ・マナーに関しては学校だけでなく、家庭との連携が不可欠だと感じる。保護者と協力し、基本マナーを身に付け、社会人になった時に困らないようにご指導願います。不登校生徒も人によって悩みも違うと思いますが保護者と連携して指導していただくことを願います。 ・クラブ活動で結果を残したのなら、もっとプレス発表をされてはどうか。 ・授業態度やマナーを改善させるルールを作り、先生方には時間がかかってもきめ細かな指導を継続してほしい。
8		生徒の自己有用感・達成感の育成	① ボランティア活動に参加する生徒を増やし質的拡充を推進する。 ② 日常の全員清掃を実施し、掃除のやり方を掃除監督が指導する。 ③ 学校行事の役割の中に生徒を配置し、生徒が主体的に活動する領域を広げ、学校行事の充実を図る。	A	①達成 ボランティア活動にしっかりと取り組むことが出来た。 ②達成 生徒の達成感も得られた。 ③達成 学校行事の開催においては、生徒会役員と教職員とが密に情報交換を行い、学校行事に生徒達の意見が反映されるように取り組んだ。	
9		他人を思いやる心の育成	① 年3回(5月、10月、1月)のいじめアンケートを実施し、いじめの積極的認知に努め、集会等でいじめの定義を生徒に十分に理解できるように指導する。また、いじめが確認されたときは、年次だけで指導をするのではなく、いじめ対応チームを中心として学校全体でいじめ解決に向けて組織的に取り組む。 ② 生徒の些細な変化にも反応できるよう、面談週間を設定するなど生徒とのかかわる時間を増やす。 ③ 校内外巡回を定期的に行い、いつでも多くの生徒に寄り添える状態を作る。	B	①達成 積極的ないじめ認知を行う為に、年3回のいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に務めた。 ②③概ね達成 4月に面談ウィークを設定し、生徒と教職員との結びつきを強めた。また、校内の巡回で、一人で過ごしている生徒へ声掛けを行い、生徒と教職員が触れ合える時間を増やした。その結果、生徒の悩みに気づくことができ、市町の機関とケース会議を開催するなど、未然の事故防止に繋ぐことができた。	
10		インターンシップ・応募前企業見学の活用・充実	① インターンシップおよび応募前企業見学は、原則1日で実施する。 ② 応募前企業見学については、1人2社必ず行かせ、ミスマッチを防止する。 ③ キャリア教育としての、インターンシップと応募前企業見学への参加率100%達成を目指す。	A	①達成 就職支援が必要な就職希望者全員に対して、長期休業中に限らずインターンシップを実施した。 ②③達成 応募前企業見学についても、2社だけでなく応募する企業すべてに見学するように指導し、実施した。	・企業との感度階層やjobフェアなどは社会を知るよい機会だと思う。 ・資格検定取得を促した結果、どれくらい取得し、就職にどうプラスになったか具体的に知りたい。そのことが生徒の進路に関する意欲につながるのではないかとと思う。 ・資格検定は生徒が必要を感じるものが課題だと思われる。 ・1年以内の離職者がいるのは残念だが、どう理由で辞めたか、次どうするかなど卒業生にもフォローしていただければと思う。 ・ハローワークや企業との関係が好ましく、喜ばしい。 ・資格検定取得を促し、努力させることは、将来必ず役立つことだと思う。
11	進路指導部	進路ガイダンス・補習等の進路行事や進路ホームルームの充実	① 魅力アップ推進事業を活用し、大学・企業見学会等の行事を実施する中で、生徒のキャリア教育向上を目指す。 ② 進路ホームルーム計画に基づき、キャリア教育を深化させる。 ③ 各行事の事前指導と事後指導を行うことで、行事への取り組み姿勢の向上を図る。 ④ 「夏季補習」や「総合的な探究の時間」、「キャリア学習ウィーク」を活用し、進学・就職に分けて、計画的継続的な補習を実施する。	A	①②達成 6月に全校生徒に対する進路ガイダンスを行った。就職希望者に対して7月に就職ガイダンスを前倒しで行い、就職に対する意識づけをした。 ③④ほぼ達成 総合的な探究の時間、キャリア学習ウィークを活用して計画的な進路指導を行うことができた。	
12		ハローワークや企業との連携強化	① キャリア学習講演会にハローワーク職員を招き、講演会を開催する。 ② JOBフェアや企業との懇談会に積極的に参加し、就職内定率100%を達成する。	A	①達成 7月の就職ガイダンスでは、ハローワークから講師の紹介をもらい、就職についての心構えや面接練習を行った。3月のキャリア学習デーでは、校内においてハローワーク職員による就職にむけての準備や求人票の見方などの講話を実施する。 ②達成 JOBフェアに参加し、12月に職業体験セミナーを開催した。	
13		企業からの要望でもある資格・検定の取得を充実する	① 各教科に呼びかけ、資格・検定の取得を生徒に促し、企業の要望に応えるようにする。	B	①おおむね達成 商業関係の検定をはじめ、資格・検定をできるだけ受験するように促した。	
14		就職内定後の辞退ゼロや就職後の離職率の減少を目指す	① 就職内定後の辞退ゼロならびに就職後1年以内の離職率10%以内達成を目指す。	B	①おおむね達成 残念ながら、今年度、3名の離職を確認している。しかし、離職率7.3%と現時点で10%を下回っている。	

番号	分掌	重点目標(評価項目)	実践項目・取組内容	自己評価	達成状況と次年度に向けて	学校関係者 評価委員の意見
15	保健部	保健安全管理・生徒の健康管理の充実	① 全校生を対象に健康相談を実施し、継続的な保健管理及び保健指導を行う。 ② 学校医と連携し、健康診断で異常がみられた生徒の再受診を徹底する。 ③ カウンセリングを活用し、精神面での生徒支援につなげる。 ④ 安全点検を計画的に実施し、安全な学校環境の維持に努める。 ⑤ 生徒対象の保健講話及び教職員対象の研修(アレルギー・救急法・カウンセリングマインド)を計画的に実施する。 ⑥ 食育活動の推進。保健指導・教科指導の中で食事の大切さを教える。	A	①概ね達成 全校生を対象に保健管理及び保健指導を継続的に行った。 ②達成 健康診断で異常が見つかった生徒への再受診は徹底できた。 ③達成 必要な生徒へのカウンセリングの活用は生徒支援につながった。 ④概ね達成 計画的な安全点検のおかげで、安全な教育環境が維持できた。 ⑤概ね達成 生徒対象の保健講話及び教職員対象の研修も例年通り実施できた。 ⑥やや課題あり 保健指導や教科指導において、一日3食、バランスのよい食事の重要性を生徒に伝えることができた。	・健康診断の実施後の再受診という課題が改善されていることや計画的な研修実施ができていたことは喜ばしい。 ・健康課題を抱える多くの生徒に対し、相談に乗ったり、理解に努めようとする学校の姿勢がうれしい。 ・食の教育は、病気になるまで初めて気が付きませう。 ・安全管理と健康管理は大変重要な項目です。学校医等とも協力して生徒の安全や健康を管理できているのはとても評価できることと思う。
16		生徒が抱える保健課題に組織的に対応する	① 生徒の心身の健康課題について、タイムリーに情報を発信し、共通理解のもとで解決に努める。 ② 各生徒が抱える健康課題に応じて、関係する教員と情報共有し、改善に努める。	A	①概ね達成 コロナやインフルエンザなどの感染症に対する対策や危険を予測できるようにその都度、適切な情報を生徒に発信できた。 ②概ね達成 生徒が抱える健康課題に対して、関係する教員と情報を共有し、組織的に改善に努めることができた。	
17	特別支援教育部	特別支援教育の充実	① 実態の把握(療育手帳やサポートファイルを持って入学している生徒の実態把握や、中高連携シートや発達障害の疑い等、気になる生徒に対しても担任や教科担当者よりリストアップし、職員全体で共通理解を図る。 ② 支援が必要な生徒に対して、年次を中心とした職員、特別支援教育部、キャンパスカウンセラー、特別支援教育コーディネーター等の共通理解を図る。 ③ 生徒本人と保護者と連携を図り個別の教育支援計画を作成する。 ④ 適宜、部会を開き、合理的配慮等の対応を検討する。	A	①②③④達成 取組内容通りに実施することができ、生徒の今後についても継続していく。特に、本人・保護者の将来に関わってくることであるので丁寧に対応し、進めていきたいと考えている。	生徒の実態把握や支援が必要な生徒に対する様々な配慮は本当にありがたいことです。周囲が適切な対応をして、自分らしく過ごすことや自己理解を深めることが必要だと思ふ。 ・全ての生徒が同様に学校生活を送れるように努めることは大切であり、それが達成できているということは素晴らしい。
18		支援が必要と思われる生徒に対する進学・就労支援	① 中学校からの引き継ぎや市町役所福祉課、支援相談員等と連携を取りながら、必要に応じて特別支援学校のセンター的機能を活用して、ケース会議を開き支援についての助言を得る。 ② 専門家を招聘して、専門性向上のための職員研修会を実施する。 ③ 就職希望者で職業評価を希望する生徒には、ハローワークに職業評価を申し込み、その結果について会議を持つ。また、進学・就業時には、移行支援計画を作成する。 ④ 高等学校における通級の指導を希望する生徒には、自己理解と同時に他者理解されるように、自ら困難さがわかり、必要な場面でサポートを求める。サポートの必要性がある場合に、説明する相手を選び、そして、伝えることができるように、将来社会に出てから困難さが少なくなるように社会自立できる力を身につける。また、通級指導を希望する生徒には、個別の指導計画を作成する。	A	①達成 今年度も密に連携することができた。 ②達成 職員研修会を2回実施し、支援を必要とする事例を検討することで、具体的な生徒への対応方法についての研修もあり、職員の専門性向上に繋げることができた。 ③達成 年次や進路指導部と連携しながら、職業評価を希望する生徒について対応した。 ④概ね達成 通級の指導には10名の担当者が配置され、より幅広い授業展開ができるようになっている。次年度も工夫を重ね取り組んでいきたい。課題として、受講生徒が多いため、個々の多様性に対応するために多くの職員が指導できる支援体制を作ることがあげられる。	
19		地域ボランティアおよび生徒の自主的な活動の円滑な実施	① Google classroomなどを用い、ボランティア活動の周知を行う。その結果として一人でも多くの生徒がボランティアに参加できるように後押しする。 ② 地域の課題を発見し、地域住民と共に課題解決に取り組む。	A	①概ね達成 昨年度に比べ、継続的にボランティア活動に参加する生徒が増えた。Google Classroomを活用し、ボランティアの募集連絡を行うことができた。 ②達成 地域住民と連携したボランティア活動を行うことができ、住民の参加も多かった。 アルバイトをしている生徒も多く、土日のボランティア活動に参加できないことが課題である。	・内容が様々である活動がたくさんあり、一つ一つを根付かしてほしい。 ・ワークショップにはたくさんの人が親子で参加されていた。北高の活動が浸透しつつあると思う。 ・防災リーダー育成についての活動をもう少し知りたかった。 ・今年度は昨年まで以上に充実した活動がなされていたと感じる。播州織を利用したワークショップはPRIになりうれしく思う。高齢者向けのスマホ教室なども地域にとってもありがたい。参加生徒の成長に加え、生徒さんが活動する姿を見て元気がもらえる。これからも是非継続してください。 ・新たな活躍の場の提供ご苦労様です。西脇北高校の自慢となる活動をさらに期待します。また、参加生徒が固定したメンバーでないように期待します。
20	ボランティア・防災部	生徒のスキルアップを図り、地域への発信力を高める	① ワークショッププログラムを熟知し、地域住民との交流を図る。 ② 普通救命講習、応急手当普及員、防災士の資格取得者を育成し、地域に向けた防災活動の担い手を作る。	A	①達成 ワークショップの実施方法等を学習し、地域住民へ指導することができるようになった。 ②達成 普通救命講習修了者7名、応急手当普及員5名、ひょうご防災リーダー講習会修了2名、防災士試験合格者2名と想定よりも多くの生徒が資格取得した。 次年度は、応急手当普及員(生徒)による普通救命講習を学校で行い、技術習得者の数を増やす。	・新たな活躍の場の提供ご苦労様です。西脇北高校の自慢となる活動をさらに期待します。また、参加生徒が固定したメンバーでないように期待します。
21		1.17を風化させない活動の実施	① 防災について地域住民と共に考える機会を設け、震災学習で学んだ知識を伝える活動を行う。 ② 防災ジュニアリーダー学習会に参加し、防災に対する意識を高める。	A	①概ね達成 応急手当普及員取得生徒による講習会を行うことで、地域住民に向けた防災教育を実施することができた。 ②達成 昨年度に比べ、防災ジュニアリーダー学習会に参加する生徒が増えた。 次年度は、学校内での防災学習研修会など、多くの生徒が防災について学ぶ機会を設ける。	・ボランティアといえば北高、と感じている市民も多いと思う。みんなよく頑張っていると思う。
22		生徒が自分自身を大切にしている	① 地域貢献活動やボランティア活動等の体験を通じて、自己有用感を養う。	B	①やや課題あり 取組内容がボランティア・防災部と重なる部分があり、人権部として動けていないという意味で課題がある。生徒が自分自身を大切にするという目標に関しては、人権HRや人権を学ぶ日でも概ね達成できている。	・同和問題をこの年齢で学ぶ、考えることは意味があると思う。 ・LGBTQIについての講演も自他の尊厳を考慮する良い機会だったと思う。 ・人権教育の一環として、ウェルビーイングの視点で学ぶことも重要であると考えます。また、授業で人権にかかわる知的理解・人権感覚を育成することに分けることも考えられます。 ・命の尊厳を大切に活動に生かしてください。
23		生徒が生命の尊厳を実感する	① 授業や特別活動など、あらゆる学校生活を通じて、自他の尊厳を大切にしている姿勢を育む。	B	①達成 授業、学校行事、LHRなど、集団で学校生活を送ることによって、自分と他人の違いを認め合うことができ、自他の尊厳を大切にしている姿勢を育むことができた。	
24	人権・図書・情報部	人権尊重の基礎を形成する	① 「人権を学ぶ日」やホームルーム活動を通して、あらゆる人権課題に対して、まず「知ること」を第一義として学ぶ。	A	①達成 人権HRや人権を学ぶ日の活動を通して、さまざまな人権課題の基礎知識を身につけることができた。	・人権については学んでも学んでも難しいところがあります。継続的に長く続けていくことが大切だと思ふ。
25		図書室の読書環境を整備する	① 生徒のニーズを反映した書籍を購入する。 ② 生徒が本を探しやすいように適切に整理・配架する。 ③ 図書室の美化に努め、明るい雰囲気作りを努める。	A	①②③達成 図書購入アンケートを生徒及び教員に実施し、ニーズに応じた書籍を配架することができた。	
26		図書室の活用や読書活動を推進する	① 図書だよりを定期的に発行し、生徒が読書に興味を持つような情報を提供する。 ② 「ボードゲームデー」「レファレンス大会」を実施するなど、生徒が親しみの持てる空間とする。	A	①②達成 図書だよりを各月に発行した。「ボードゲームデー」「ライブリーカフェ」「レファレンス大会」などを実施することにより、生徒がより図書室に親しみを覚えるよう工夫した。また、図書LHRを実施することにより、生徒が図書を読むきっかけ作りができた。	
27		ICTを利用した授業づくりの推進	① 各教室でICT機器を用いて授業が行えるように、周辺機器等を整備する。 ② クラウドサービスをはじめとする各種アカウントを整理し、教員・生徒が授業でアプリ・サービスを利用できる環境を整える。	A	①②概ね達成 各種アカウントの整備や、授業で使えるアプリの配布などの環境面を整えることはできたが、アプリ・サービスを教員及び生徒が全員スムーズに使いこなしたわけではない。教員同士のICTに関する情報交換も密にしていきたい。	
28		クラウドシステムを活用した円滑な学校運営	① 学校から離れた場所でも職員間で情報共有できる環境を整える。 ② 生徒と学校が双方に情報交換できる環境を整える。	A	①達成 Teamsを用いた職員連絡等を実施した。 ②達成 Classroomを用いた授業などが実施できた。	
29		生徒と地域の交流機会を創造する	① 災害支援や地域支援のボランティア活動を実施する。 ② 西脇市郷土の住民との合同防災訓練(7月)を実施し、地域住民との交流を図る。 ③ 生徒同士が協力して、地域の清掃活動を行い(クリーンキャンペーン)、生徒同士の交流を図るとともに地域への愛着を深める。	A	①②③おおむね達成 積極的に取り組むことができた。	・不登校生徒の心の叫びが気になります。 ・合同の防災訓練を通じて、地域住民との交流を図り、生徒の自己有用感を育てたり、北高ホットスペースでの声掛け運動を実施したり、生徒への心のケアができていたと思ふ。
30	心のサポート委員会	生徒と教員の交流機会を創造する	① 学校行事などを通して生徒と教員の交流をつくり絆を深める。 ② 各部の連携と北高ホットスペースなどで声かけ運動を実施し、問題行動や生徒の孤立化を防ぐ。 ③ 年度当初に面談週間を設定し、複数の教員が生徒と面談を行い、生徒が教員に相談できる環境づくりに努める。	A	①おおむね達成 文化祭や体育祭を通じて生徒と教員との交流をはかることができた。 ②達成 年間を通じて声掛けを実施し、生徒の問題行動の未然防止や問題を抱える生徒への対応に繋げることができた。 ③達成 4月に面談ウィークを設け、複数の教員が生徒と面談する機会を設けるなど、生徒と教員の距離感が上手に取れている。	
31		外部機関との間に交流機会を創造する	① 「自殺予防に生かせる教育プログラム」「いじめ防止プログラム」活用する。 ② 各年次、各部と情報共有と共通理解を図り、必要に応じては外部機関と連携を取る。 ③ 職員研修会において講演会を実施する。	B	①達成 9月に1年次を対象とした自殺予防LHRを2週にわたり実施するなど、プログラムを活用できた。 ②達成 生徒指導部会で生徒の情報共有を実施することができた。 ③達成 ゲートキーパー講座、自殺予防に生かせる教育研修を実施した。	
32	事務室	環境負荷軽減の推進	① 光熱水費の適切な使用。 ② 紙の使用量の削減。 ③ 環境配慮型製品の購入及び物品の長期使用。	B	①達成 今後も無駄のない適切な使用に努める。 ②概ね達成 会議資料のペーパーレス化、裏紙の再利用等使用量の削減に努めた。 ③概ね達成 引き続き環境配慮製品の購入を通じ、環境負荷軽減に努める。	・自動音声応答電話は、かけた時にわかりやすい。 ・環境整備に大変努力をされていると思ふ。物価高の影響もありますが、引き続き努力されることを望みます。
33		施設・設備の点検及び校内環境の整備・美化の推進	① 施設・設備の定期的な安全点検及び整備。 ② 樹木の剪定等の美化の推進。 ③ 未来を担う高校生等の部活動等応援事業の有効活用。	B	①概ね達成 定期的な安全点検を実施するとともに、予算執行が可能な範囲で整備を行った。 ②概ね達成 引き続き校内環境の整備・美化に努める。 ③概ね達成 故障した楽器の更新等行い、部活動の充実を推進した。	
34		接遇の推進	① 来校者への挨拶及び丁寧な窓口対応。 ② 自動音声応答電話導入に伴う適切な電話対応。	A	①②概ね達成 引き続き接遇の向上に努める。	